令和6年度第1回加賀市健康福祉審議会 議事録

【日 時】 令和6年6月11日（火） 午後2時～午後3時50分

【場 所】 加賀市役所 302・303会議室

【出席委員】 ◎谷本、○上棚、沼田、山村、吉野、西野、雪富、中村、石川、東本、宮野
（敬称略 ◎会長、○副会長）

【欠席委員】 西、久藤、西出、竹腰

【議事要旨】

1. 開会

2. 委員の委嘱及び事務局の紹介

- ・委員紹介、委嘱
- ・事務局紹介
- ・市民健康部長挨拶

3. 役員選出

- ・本審議会の会長選任
加賀市社会福祉協議会
会長 谷本（たにもと）直人（なおと）氏を選出
- ・本審議会の副会長選任
一般社団法人加賀市医師会
会長 上棚（うわだな）直人（なおと）氏を選出
- ・会長、副会長挨拶

4. 議題

※審議事項の説明は、別紙資料のとおりとし、質疑のみの記載とする。

- （1）健康福祉審議会及び各分科会について（資料1）
- （2）各分科会に属すべき健康福祉審議会委員について
- （3）各分科会委員の推薦について（資料2）
- （4）諮問事項について（資料3-1～3-3）
- （5）令和6年度健康福祉審議会及び各分科会の主な施策について
 - ① 健康福祉審議会（資料4）
 - ② 高齢者分科会（資料5）

- ③ 障害者分科会（資料6）
- ④ こども分科会（資料7）
- ⑤ 健康分科会（資料8）

5. その他

6. 閉 会

～質疑事項～

議題

（4）諮問事項について

- ・第5期加賀市地域福祉計画の策定について
- ・加賀市こども計画の策定について

上棚副会長

この計画だが、貧困などいろいろ組み立てているが、働きやすさは、幼児保育、病気の子に対するケアを考えていかないといけない時期に入っているのだから、これを盛り込んでいかないと、働きやすさは得られない。

人を集めるには、例えば、老後は安定している、病気を診てあげるから働いてくださいなど、そういったバックアップが必要なので、その辺を計画案に入れないと。時代も変わってきているのだから、同じパターンでやっても意味がないので、時代の流れに沿って、案を1つ増やしていくべき。そうしないと、限界集落になっても仕方がない。未来へのチャレンジということをちゃんとこれから目指してやらなければならない。

保育と一貫した形で、保育にも魅力があり、とにかく保育に携わった中では、「子どもはものすごく生き生きしていますよ」くらいのことを入れていかないと、誰も魅力があって、ここでみんな暮らそうという感覚が出てこないわけだから、1つ新しい起爆剤を入れていかないと、同じことばかり繰り返しやる意味がないと思うので、その計画性を是非とも、この5カ年の中にいれてほしい。

事務局（子育て支援課長）

ご意見ありがとうございます。今後取り入れていきたい。

宮野委員

私は重複障がい者、いわゆる重度心身障がい者を育てている。今、息子は10歳になり、成人するまでのハーフの時期に入っているが、特別支援学校等で成年後見制度について、勉強する機会があるが、成年後見制度は法定と任意がある。成年後見制度はすごく内容が難しく、なかなか私たち障がい児の親が使いにくい、理解しにくいという点では、加賀市の中で、障がい児、障がい者の方を家族に持っている方が、わかりやすく、成年後見制度を使えるような、それが前提にないと、制度だけ、計画だけを出されてもなかなか勉強していないと。特に法定になると、裁判所が入ってきたりする。私も東京の方で、肢体不自由でPTA会長をされていた法律の専門家でもある方にいろいろ聞いているが、私が成年後見制度の冊子をい

ただただだけでも、どちらを選択していいのか、まだまだ。ただ、親が元気なうちに、成年後見制度は早く選択していかなければならないことは、重々承知しているが、今まで息子を10年育ててきて、加賀市でそのような勉強会があったか、それを誰に相談していいのか、相談員も法律まで熟知している方はなかなかいないのではないかと思うし、行政の方もそこまで答えてもらえる機会がなかったなど。もちろん私自身が、夫もだが、家族がなかなか一歩を踏み出せない現実があることを、是非行政の皆さんには、もしかしたらそのような意見も上がっているのかもしれないが、私たち当事者が漠然とこの計画を見た時に、選択ができるところまでいってない。大半の方はそうだと思う。

特別支援学校で勉強会に出ても、細かくわかりやすい説明を聞けていないのも確かなので、皆さんが成年後見制度を考える機会を加賀市で提案していただけたらありがたい。

事務局（相談支援課長）

皆さんにとってなかなか難しい制度というのは承知している。社会福祉協議会に後見センターの「ほっこり」を委託しているので、もし詳しいことであればそちらに窓口があるのでそちらでご相談ということは思っているが、確かに親御さんがきちんと選ぶということがとても大事だご意見聞いて思うので、計画に盛り込んでいきたい。

沼田委員

この計画資料の3-3で、この加賀市子ども計画が、今後4つの計画を包含した「母子保健計画（すこやか親子21）」と一体化した策定であると、例えば今、宮野委員がおっしゃったような、実務的ないろんな細かい話を詰めるのが分科会だと思うが、これは建付けで、要するに一体化するが、子ども・子育て新事業計画、それからすこやか親子21は分科会で話をするとして、この計画そのものには、くっつけるイメージでよろしいか。加賀市子ども計画は、基本的にそれぞれの分科会が2つ入っているが、子どもの貧困対策計画や子ども・若者計画はどの分科会でお伺いできるのか。

事務局（政策官）

この計画についてはこども分科会で審議・調査していく流れになっている。現在も、子どもの貧困対策計画は、子ども・子育て支援事業計画の中に一部盛り込まれているが、昨今の状況を踏まえて新たな第三期計画の中で、子ども計画として盛り込む形で進めていきたい。

沼田委員

どうしても審議会は、まとめの会になるので、基本的、実務的な各論を十分話し込む分科会の実現はとても重要だと思うので、よろしくお願ひしたい。

事務局（政策官）

審議の経過については、ホームページで公開しながら、上位の審議会でも報告させていただく。

（5）令和6年度健康福祉審議会及び各分科会の主な施策について

① 健康福祉審議会（資料4）

山村委員

資料4のひきこもり支援体制について、資料によると令和2年度の民生委員・児童委員の調査と書いてあるが、実際は小学生・中学生の不登校の生徒数が多いと思う。昨年、先生方の働き方改革なのか、加賀市の全小中学校でコミュニティスクールが始まり、地域でできることは地域に下そうというので、不登校の生徒の面倒を先生が見ていると思うが、個人情報があり、なかなか地域に下りてこないのが、教育委員会はもちろん連携していると思うが、市と教育委員会との連携で、不登校の子ども達の支援は大丈夫なのか。

事務局（子育て応援ステーション所長）

加賀市の不登校支援プランとして、こちらは令和6年度教育委員会で配布された「BE THE PLAYER」というもので、加賀市で多様な学び場所を作っていくということで、子育て応援ステーション、子育て支援課、それから教育委員会とも連携し、学校だけではなく地域の中での居場所ということで、計画を立て進めていきたいので、引き続き見守っていただき、ご協力いただきたい。

山村委員

私は中学校のコミュニティスクールのコーディネーターをやっているが、なかなか子ども達の不登校の情報が地域に下りてこない。ある人がいうと、やはり教育委員会なり学校なりに隠蔽体質があるのではないかとということもあり、なんとか是非、子ども達には引きこもりがあって登校できなくても、支援ができるような体制を教育委員会と一緒にやっていただきたいのでよろしくお願いします。

② 高齢者分科会（資料5）

上棚副会長

高齢者分科会のデータで、高齢者数と高齢化率はこれでいいが、歩ける人と歩けない人の比率を入れてくれると。歩けない人に歩ける人が補助をする、いわゆる老々介護になるが、やはりちゃんと活用していく、歩ける人がちゃんと歩けない人を補助してその人のフレイルを防ぐ、やり方もあると思うので。歩行できる人とできない人、ベッド上の人など、データベースで出せるのであれば、利用し活性化していく。ただデータだけを出して、健康な人が見るのではなく、高齢化になった人もやはりそのようなノウハウを持っているはずだから、それを大いに利用していくという意味で、加賀市だけでもそのようなデータを出して、人間のSDGsをやってほしい。

事務局（介護福祉課長）

すでに介護予防事業の中で、例えば、地域型元気はつらつ塾では、少し弱ってきている方を対象に行っているが、その場には、高齢者で元気な方に協力員として、ご協力をいただきながら開催している。すでに協力員の方がいないと、開設ができない状況である。その他にも、介護予防でも少し弱っている方の家に、家事支援ということで家事のお手伝いに行くものも、一定の研修を受けていただいた元気な高齢者の方に行っていたらいいと思っている。

もう少しお気軽に、簡単にできるものとして、介護事業所などにボランティアに入ると、ポイントをつけ、貯まったら、若干の現金を差し上げる事業もやっている。

そのような形で、元気な高齢者が、介護が必要な方のお手伝いに入るとい事業をやっている、そういったことをまた進めながら、またそれ以外の活躍の場もたくさんあると思うので、もっと参加いただける形でやっていきたいと考えている。

上棚副会長

それは見える化していった方がいい。

事務局（介護福祉課長）

たくさん参加していただけるようにしていきたい。

④ こども分科会（資料7）

上棚副会長

5ページの在宅育児家庭通園保育モデルは大変良いが、このようなものがあってもなかなか浸透していかないところが多いので、浸透させる意味で、どこでアナウンスしていくべきか、今から決めておかないと。例えば、子どもを産むパターンであれば、第一子を産んだ時にいわゆる4か月検診の時点でパンフレットを渡すなど積極的にやらないと、広報に出したというだけでは絶対浸透はしないので。せっかく良いものを作っても浸透しないと意味がないので、その案も練っていただきたい。せっかく良いものを出しても、結局活用しなければ意味がないので、その辺を大いに活用していただくと。特に今の若いお母さん達は子どもが2人いるとてんでこまいになってしまうので。昔のことを考えると、僕も70年のうち40年は小児科医をやっているが、5人産んでいた方も背中によいしょして、両手に担いで自転車の後ろに乗せてやってくるような、パワフルなお母さんもいらっしやったので、そういうイメージがあるのでできるはずだろうという印象を持っているが、今の働く世代は共稼ぎで、2人いるだけでも大変なのでそのことも考えたら、できるだけこのような制度を大いに利用すべきであるということアナウンスすべきである。徹底周知していただくようお願いする。

事務局（政策官）

保育園は、現在共働きの家庭を中心にご利用いただいているが、国も少子化の現状を踏まえ、働いていようが働いていまいが、0歳児からしっかり教育をしようということで、都会の方は待機児童がいるが、加賀市はそういったこともないということで、0歳児から柔軟に保育している、そして保育の仕方を学んでいただく、保育の負担軽減をしていただく趣旨のものである。

これは5年程前から実施しているが、せっかく良い制度であるということであれば、しっかり周知して必要な方に使っていただけるよう、工夫していきたい。

雪富委員

在宅育児家庭通園保育モデル事業、制度的には本当に素晴らしいし、保育園を初めて使われる親御さんにもすごく使いやすく良い制度であると思っている。ただ、一方では市内のどこの保育園もそうだが、介護の現場と一緒に人が不足している。その中で、いつでも使えて、いつでもどうぞということが正直難しい。やはり、制度がこうなっていると行政の方が言う通りだと思うが、現実やはり大切なお子さんをお預かりするので、安全な環境の中でお預か

りしなければならないので、人的に不安があるところでお預かりするのは、なかなか難しい部分もあるということは皆さんにご理解いただきたい。また、高齢者分科会でも人材確保についての事業が掲載してあったが、やはり保育現場、障がいの方でも一緒かと思う。是非、良い人材が加賀市でお勤めできるような施策を盛り込んでいただけたらと、私の希望であるが。現実問題、そろそろ大学、短大など求人が始まってくるが、養成校もかなり減ってきていて、養成校から加賀市に就職する学生が本当に少ない。そのあたり、加賀市の方に戻ってきてもらえるかとか、IターンやUターンのインセンティブなどを考えていただけるというようなことがあれば、そのような課題も解決したいし、計画に盛り込んでいただけるとありがたい。

もう1点、創造性をはぐくむ保育実践事業について、先ほどからレッジョ・エミリア・アプローチを活かした保育実践だと言っているが、私どもは法人立保育園だが、私どものところも50年余り、地域に根差した保育園を目指して、地域の方々とこれまでも子どもたちを育てていく応援をさせていただいてきた。今、先進的ということレッジョ・エミリア・アプローチを取り入れてということであるが、新しいものを取り入れていくことは結構なことではあるが、私どもとしては、既存の、今まで一生懸命培ってきたことも、十分皆さんに認識いただいて、これまでの経験というのも見ていただき、全てがこれというのは、私どもは納得しかねるところがあるので、そのあたりはご理解いただきたい。

事務局（政策官）

在宅通園モデル事業については、国のこども大綱の中でも示されている新しい対応である。そういった中で、1つの方向性に向かう主旨であり、当然、受ける側とニーズ、そこは合致して初めてサービスが提供できるので、そこをすり合わせしながら、しっかり取り組んでいきたい。

それから人材確保、これは高齢、障害、そして子ども、医療などもそうであるが、人材不足というのは、人口減少の中でどうしても出てくる問題である。

そういった中で、保育に関しては、ICT、保育の周辺業務を外注化する事業、保育の中身の効率化、そういったことを取り組んでいただく中で、本来の保育に充てる時間を十分に確保できるように、また法人とも連携しながらしっかり取り組んでいきたい。

レッジョ・エミリア・アプローチに関しては、よりよい実践をしていくため、新たな方向性を示している。そういった中で新たに取り組むにあたっては、多忙感、負担感がある中で、いろいろと大変であるが、1つのモデルをベースとして、よりよい保育に進化していきたいところである。

既存の保育については、もともと、それぞれ独自性、創意工夫しながら実施していただいているので、市の取組みについては、多様な選択肢の1つとして、またしっかり示したい。

宮野委員

障害のことばかりで申し訳ないが、子ども分科会で、医療的ケア児のレスパイトのケア、新しい事業として挙げられていて、大変ありがたい。

ただ、この医療的ケア児、最近、加賀市議会でも医ケアのレスパイトの件、本会議で出されていたと思うが、この医療的ケア児の中に、やっぱりうちの息子のよう、動く医ケア、動ける重身が、全国でこの医療的ケア児がひとくくりになってしまって、動ける医ケア、動

ける重身の子どもたちが、受け入れ先が全くない。私も今日この場で、この話をするのが適切かどうか、お許し願いたいですが、今、南加賀市でうちの息子のように動ける重身を預かってくれる福祉事業所は1件もない。レスパイト新事業を今ここの新規で挙げられているのは大変ありがたいが、訪問看護ステーションの訪問看護ですら、今、事務所がない中で、どうやってレスパイト事業が成り立っていくのか、私には、この短い時間の中で理解ができなかった点である。

昨年、医ケアの全国フォーラムがあった時に、各省庁から役所の方が出ていて、野田聖子さんが出席された全国医ケアフォーラムの中でも、動ける重身、動ける医ケアのお母さんが、自分が手術をしても受け入れ先がないので、つい翌日から子どものケアにあたって、実際、私もそうだが、先月金大で手術をして、結局、2年間事業所を探したが、1件もなかった。加賀市で言ったら、石川病院にも断られ、小松こども医療福祉センターにも断られた。今年3月に医王病院に行ったが、医王病院でも同じような返答で、動ける子は、まずスタッフの手がかかる、安全環境を確保できないので、私ここ2ヶ月安静だけど、預かってくれるのが医王病院で最低限度、2泊3日と言われた。

諦めて、在宅でいるような形をとって、今加賀市の行政の皆さんの力を借りて、特例で移動支援を使わせていただいている。これは他の市町村のお母さん方からも、加賀市すごいねって言ってくれるぐらいに、特例で瀬領から大聖寺へ帰りの便だけ送迎を、それも小松市の事業所から。加賀市では、1件も受けてくれるところはなかった。でも、これからもしレスパイト事業を、加賀市で本当にやるのであれば、医療的ケア児、括弧でも結構、動ける医ケア、動ける重身も、一緒に考えていただけたらと思う。

今、石川病院も小松こども医療福祉センターも、診察前は、石川病院は受けてもらったが、その後、返事をいただいてない状態で、小松こども医療福祉センターは診察すら受けいれてもらっていない状況である。そういった家族が加賀市にも他に何人かいらっしゃる。そのまま在宅で子どもを見るのは諦めて、入所選択された方もいらっしゃる。

今日お願いしたいのは、どうか一緒に力を貸してもらいたいと思って、これから他の石川県の中心部の自治体に負けないぐらいに、この動ける重身、動ける医ケアの子どもも、加賀市で一緒に生活していけるように、私なりにいろんな情報も皆さんと共有していきたいと思っているし、その中で皆さんの力がなくては動けないこともたくさんあるので、その力を借りたい。

例えば、このレスパイトの中に訪看、訪問看護ステーションがあるが、レスパイトで使えるならば、短期入所を使える事業所を増やしてほしい。

大聖寺にも短期入所があったのでお願いしに行ったら、医療的ケア児、重身は全く今まで受け入れたことないというので、見学すらできなかった。でもそこを何とか、始めはお試しからでも全然構わない。1時間でも2時間でも結構。少しずつ子どもも私たち保護者も事業所さんも含めて、慣れ親しんだところで、何とか生活していけるようなサポート支援をお願いしたい。

現実、受け入れる場所がない。今、南加賀からは全て、石川県の中心部の事業所行っていることを皆さんにご理解いただきたい。その上で、この事業の発展にご尽力いただけないかと思って、今日発言させていただいた。

もう1点、今この医療的ケア児の非常用の給付事業が少し拡大、拡充になったところで、自家発電や、災害に向けてもそうなんです、これ酸素とか吸痰とかするお子さんだけじゃ

なくて、うちの息子もそうなんです、食事をミキサーにかけて、ミキサー食を食べている。それは高齢の方も一緒だと思う。今回、能登半島地震があったときに、高齢者の方々が食事、いろんな配給が来ても、食事を摂取できなかった方が。やっぱり固さや、味つけなどもそうなんです、やはり一番は食形態だと思う。うちの息子もミキサーに全てかけて、とろみをつけたりする。高齢者の介護を必要な方も一緒だと思うが、そのミキサーも電力がないと動かない。この枠組みで酸素や吸痰なども、それだけに括りつけてしまうと、例えば白湯を使わなければいけないお子さんも電力があると助かると思って、私たちも今この災害に向けて、どういう電力がいいかと思って、家族会で今話し合っているところなんです。

これは自分で購入するのも1つなんです、今回ここに挙がってないが、加賀市民の方も健康という部分では、災害時のそういう備蓄関係も関連してくるのかと思って、電力や自家発電に合わせて、行政の皆さんから考えていただけたらと思ってお伝えした。

やはり障がい児でないと、障がい者を育てている親でないと、また家族に介護や難治性のいろんな在宅で、一生懸命介護されている方たくさん、それぞれやっぱり備蓄されているもの違うと思うので、それをすべて行政の方に備蓄してくれっていうのも難しい話で、でもそれはこの家族会が話をしていかなきゃいけないこともたくさんあるし、こういう電力っていうのは、なかなか私たちも自助で、災害時に避難したときに、これまで持ってなかなか動けない。

この前金沢市で勉強会があったときに、モバイルバッテリーっていうので、実際このものがあったても、使い方もわからない人がたくさん、いくら障がい児の親であっても、それを勉強する機会もなかったので、今後加賀市でも備蓄でこういうものもストックしてあるかもしれないが、実際、行政の方が同じ被災者になるわけだから災害時は、1人でも多くの方がこういう機械を使える状況も私たち家族会でやっていくべきではないかと思う。

でも家族会も、この加賀市で医療的ケア児っていう家族会はないと思う。

南加賀に1件、スマイルの会という医療的ケア児家族会があるが、今停止している状態で、新規も一切とってないし、私も入ろうと思ったら、新規は受け入れてないってことで、今おそらく南加賀の医療的ケア児、家族はどうしているのかって、私は金沢の方の、石川県の家族会に入っているが、そういうものを今後加賀市で、何とか頑張って踏ん張ってできたら、こういう交流会でいろんな話も上がってくるのではないかな。

私も皆さん先輩方がすごく優秀なので、行政の皆さんの前で、こういう話をするとすごく勇気もいったし、何か途中から場違いかと思ったが、私はやっぱり子どもをこの加賀市で育てていきたいっていう思いで、この場に出席させてもらったし、せんだって、療育手帳の更新の時に、石川県と南加賀の、児童相談所の方に将来動ける重身における医ケアの方は、なかなかこの石川県で、事業所や施設を見つけるのは難しいって。

県外へ探しに出て行かなきゃいけないのではないかな、そういうことが、確率的に高いと言われて、大変ショックだった。やっぱり、生まれ育ったところで皆さんと一緒に生活していきたいと思ながらも、現実はどうではないというか、息子が18歳になった時には、どこか、私たちの住んだことのない県外へ、その事業所を探さなければいけないのかと思うだけでも胸が詰まる。

でもそういった現実を、私達障がいの親も抱えていることも含めて、これから先輩方と一緒にこの審議会でいろんな高齢もそうだし、健康もそうだし、子どももそうだし、いろんなこと勉強させていただきたいと思っている。

本当にまだまだ勉強不足なんですけど、また行政の皆さんからもいろんなことを教えてもらいながら、私は子どもが障がい児で、障がいのことしか話せなかったこと、大変申し訳ないが、これからはいろいろ勉強していきたいと思うので、ご指導よろしく願います。

事務局（子育て応援ステーション所長）

医療的ケア児のレスパイト支援事業であるが、資料にもあるとおり、家族の声、体調の悪い時に代わってくれる人がいない、ゆっくり外出したいけれどもお子様を児童発達支援の通所の利用ができないということで、そういった声をもとに必要な事業ということで、加賀市の中での声をもとに生まれてきた事業である。今、動ける医ケア児、動ける重身のお子様ということで、お子様の年齢や発達段階、必要とするケアの程度や生活の実態に応じて、またお声を聞きながら、関係機関とも連携しながら、一緒に頑張っていけたらと思う。

⑤ 健康分科会（資料8）

上棚副会長

健康分科会の2ページだが、せっかくフレイルをなくすということで体力づくりの施策をするが、人によって時間が合わないとか、費用が合わないとかおそらくあると思うので、せっかく行きたくても行けないという人もいるだろうから、やっぱり1つの場所を確保してそこにいつでも行ったら、指導員がおられて、逆に言うと運動はすぐできるよと、とにかくプログラムを組んであげる。僕もジムに通っていたことがあるが、ジムに行っても結局はただ自分の計画立案だけでやっていて、自分がどうしたいこうしたいと言っても結局プログラムしてくれる人がいないというのが現状で、実際の人件費が安いので皆さん定着してくれないというのが問題なので、できたら常勤をおいていただいて、来られた時にプログラミングをして、長く続けられるような状況を作る、ある意味一定した段階はそういうことを計画してくれば、さらに、運動する人たちが増えるんじゃないかと思うので、その辺も考慮していただければと思う。

沼田委員

今回の地域福祉計画を新しく作成されるところで、ぜひお願いしたいのが、やはり今、人権がとても重要な要素だと思うが、1つのデータを挙げると、高齢者分科会の5ページ。医療と介護の更なる連携推進のこの図1つにしても、支援側の図が、結局当事者である人がどういうふうを考えているか、具体的に言うとACP、アドバンス・ケアプランみたいな、自分の人生をどういう最後の終末までプランニングするかというのは非常に酷だが、そこはとても重要で、医療と介護の更なる連携の中で、本人がどう考えるかっていう。例えば、④の部分でも、受ける側の意見表明、子どももそうで、子どもの意見表明というのも子どもの権利条約等々、きちんと規定されている。型どおりの、子どもが意見書を作るのではなく、私は加賀市のあらゆる施策が非常に地について素晴らしい、市民に沿ったものであると公言しているが、ぜひ新しいこの福祉計画の時には、当事者、或いは人権という観点で、書き込んでいただくと、すごくいいというのが1つ。

もう1つ、今この分科会のご報告いただいたときにすごく意見がいっぱい出てきたと思うが、そもそもこの福祉計画というのはやっぱり理念とか、割と大枠を決めていくと。今、出てきたようなご意見は、分科会で徹底して詰める話だろうと思うが、例えばこの計画は、令

和7年度から新しいものができる、そうすると、資料3-2に書いてある2ページの概要について思ったが、今更言うのもなんだが。

福祉計画が変わる年度と、いわゆるアクションプラン、事業計画みたいなものとはずれている。例えば、大元の福祉計画で仕切り直されて、新規事業をやるというときに、どうアクションプランに組み込まれて、いろいろ組んで整理されているというのは、大元を考えた時にずれていると思ったが、今回は子ども、子育てと、それからすこやか親子21がちょっと切れて、他のところがちょっと引っかかるのか。その辺でどうやって整合性を保つのか。

また、雪富委員がおっしゃった子どもの方は新しい保育事業なんかも、例えば、振り返りは分科会でされていると思うが、例えば、アウトカム、見直しのときはどれぐらいのレベルのものをやりましょうというのはもちろん書かれると思う。ただそういう見直しを含めて分科会もきちんと進捗状況を見る、或いはこの事業の評価をするっていう振り返りの報告もここで入れると。この審議会とすると、そこが総合的に把握できてさらに見やすくありがたい。

事務局（福祉政策課長）

最初の人権について、ご意見大変ありがとうございます。また、その辺りもこの審議会の中で検討していければと思っている。

計画のずれであるが、今ほど、沼田委員が申されたように、例年、計画の評価を毎年やっている。

そのあたりを、以前は評価というところで報告していたが、最近コロナ化で、会議を開催できないところもあり、内容を少し変えながら、会議をさせていただいている。また、そういったところも、年度末の会議等で報告ができるように改めていきたい。